



平成20年8月28日

各 位

上場会社名 **日 清 紡**

コード番号 3105

代表者名 取締役社長 岩下俊士

問合せ先 取締役専務執行役員

事業支援センター長 鶴澤 静

TEL 03-5695-8846

### 新規事業の拡大計画と繊維事業再編についてのお知らせ

当社は、太陽電池製造設備事業および燃料電池セパレータ事業の生産拠点につき、下記の方針を決定しましたのでお知らせします。また、これに関連して、繊維事業について国内生産を縮小するとともに海外生産を拡大し、国内の経営資源を新規事業にシフトすることにしましたので、併せてお知らせします。

なお、これらの施策による当期業績への影響については現時点では軽微なものと予想しておりますが、明確になり次第開示いたします。

### 記

#### 太陽電池製造設備事業

急拡大中の受注に対応するため、美合工機事業所（敷地面積18千坪）を38千坪に拡張し、同設備専用工場を建設します。現在建設中の専用工場（延床面積3,500坪 2009年3月完成予定）に続き、ほぼ同規模の専用工場を2010年度と2011年度とに建設し、年500億円の受注体制を構築する予定です。

なお、現在建設中の工場と合わせ約65億円の投資が見込まれますが、自己資金で賄う予定です。

（注）美合工機事業所（愛知県岡崎市）は、太陽電池製造設備・専用機・精密部品等を製造し、美合事業所（敷地面積58千坪 繊維加工・燃料電池セパレータ製造）に隣接している。  
美合事業所の敷地を20千坪縮小し、美合工機事業所の拡張に充てる。

#### 燃料電池セパレータ事業

家庭用燃料電池は本年度で実証試験段階を終え、2009年度から本格的に販売開始となり、当社セパレータ事業の垂直的立上りが予測されます。受注増に対応するため、新たに取得した工場用地（千葉市緑区 敷地面積24千坪）に新工場（延床面積2,000坪 2010年3月完成予定）を建設し、セパレータの新生産拠点とします。

新工場には美合事業所の製造設備を移設するとともに、最新設備を導入し、当面、燃料電池年2万台分に相当するセパレータ生産体制を構築します。なお燃料電池市場の急成長に備え、工場建屋についてはあらかじめ燃料電池年30万台に相当するセパレータ生産に対応しうる規模とし、需要増に応じて順次製造設備を追加導入する体制を採ります。

なお、土地取得資金を含む初期投資約35億円が見込まれますが、自己資金で賄う予定です。

## 繊維事業

繊維事業について、生産の主力を国内から海外にシフトするグローバルな再編を行ないます。

### ・美合事業所（晒・染色加工事業）

不採算の染色加工を中心として事業を整理し、2010年度内に現在の月産250万m体制から月産100万m体制に移行して、これによる国内自社加工減少分は、提携先企業との協業および海外加工へのシフトにより、品質を維持しつつ採算改善を図ります。海外加工についてはインドネシア子会社「ギステックス ニッシンボウ」を拡充し、日清紡品質を確保した上で受け皿とするほか、低コスト国における加工子会社の設立も検討します。

再編後の自社加工は晒連続加工・液流加工・液安加工・ニット加工となりますが、これらについても汎用品は海外シフトを進めます。同事業所は引き続きグローバル展開上のマザー工場と位置付けますが、その機能は独自製品の開発と高付加価値品・差別化品の生産に特化します。

なお、繊維加工事業の再編と燃料電池セパレータ事業の移転により生み出される事業所用地20千坪分を、美合工機事業所の拡張に充てます。

### ・島田事業所（紡績事業）

加工と同様、開発と高付加価値品・差別化品の生産に特化します。老朽化した汎用糸用の紡績設備47千錘を2008年度中に廃棄し、海外子会社・関係会社からの輸入糸に置き換え、採算改善を図ります。これに伴い、島田事業所の紡績第一工場はクローズし紡績第二工場のみ1工場体制とします。この廃棄により、当社の国内保有錘数は132千錘から85千錘に減少します。なお、島田第一工場は撤去し、跡地は新規事業等での活用を検討します。

美合・島田両事業所の繊維事業再編に伴う投資等の資金として、約10億円が見込まれますが、自己資金で賄う予定です。

以上